

水稻生産者様

緩効性肥料におけるプラスチック被膜殻の流出防止等に関するアンケート票

※今回のアンケート調査は、水稻を生産している農家様が対象です。現在、水稻を生産していない農家様におかれましては、このアンケートを破棄して頂ければ幸いです。

プラスチック被覆肥料(コーティング肥料、水稻用一発肥料)における
プラスチック被膜殻の流出の取組状況についてお聞きします

<Q1> プラスチック被膜殻をコーティングした被覆肥料(コーティング肥料、水稻用一発肥料等)は、肥料成分が溶出した後の被膜殻が河川や海へ流出することが問題になっています。被膜殻が流れ出ると海洋プラスチックゴミになることをご存知でしょうか？

被覆肥料のプラスチック被膜殻が 海洋プラスチックゴミになることを	1. 知っている →<Q2>へ 2. 知らない →<Q3>へ
-------------------------------------	-----------------------------------

<Q2> <Q1>で「1. 知っている」と回答した生産者様にお聞きします。

被覆肥料のプラスチック被膜殻が海洋プラスチックゴミになると知った時期を、以下の中から、当てはまるもの一つに「○」をお付け下さい。「4. その他」を選んだ方は、何年前に知ったかをご記入下さい。(回答後 <Q3>へ)

被覆肥料のプラスチック被膜殻が 海洋プラスチックゴミになることを	1. 3～5年前(2018～2020年頃)に知った 2. 1～2年前(2021～2022年頃)に知った 3. この1年以内(2023年)に知った 4. その他 ()
-------------------------------------	---

<Q3> プラスチック被覆肥料(コーティング肥料、水稻用一発肥料)の利用状況について、以下の中から、当てはまるもの一つに「○」をお付け下さい。尚、プラスチックを使用しない緩効性肥料(硫黄コーティング肥料、ウレアホルム肥料等)は除きます。

現在、プラスチック被覆肥料 (コーティング肥料、水稻用一発肥料)を	1. 利用している →<Q4> [p.2]へ 2. 利用していない →<Q8> [p.3]へ
--------------------------------------	---

<Q4><Q3>で「1. プラスチック被覆肥料を利用している」と回答した生産者様にお聞きします。

ほ場から流出する被膜殻の9割は代かき時期に発生しています。このような中、代かき時期にプラスチック被膜殻の流出防止対策を実施していますか？

※流出防止対策の具体的な内容は、同封資料をご覧ください。

流出防止対策を	1. 実施している →<Q5>へ 2. 実施していない →<Q7> [p.3]へ
---------	---

<Q5><Q4>で「1. 流出防止対策を実施している」と回答した生産者様にお聞きします。

現在、代かき時期に実践している流出防止対策について、以下の中から、当てはまるものすべてに「○」をお付け下さい。その他の場合は、内容をお教え下さい。(回答後<Q6>へ)

1. 代かき時に、田んぼの土や濁った水が流れるのを防ぐために、「止水板」を設置している
2. 田植え前は、強制落水を行わず、「自然落水」により水位を調整している
3. 被膜殻が浮上しないよう「浅水代かき」※を行うようにしている
※「浅水代かき」とは、入水量を減らして代かきをすることで、肥料成分等を含んだ汚濁水の河川、池への流出を防ぐ技術
4. 被膜殻流出防止のため、排水口に「捕集ネット」※を使用し、被膜殻が水路に出ないようにしている
※「捕集ネット」とは、以下のような水尻に設置するネット



5. 水尻作業や藁あげのタイミング等で、浮遊した被膜殻を見つけた際は、直ぐにすくい取るなど除去している
6. その他
()

<Q6> 現在、実施している流出防止対策の課題・問題点について、お教え下さい。

(回答後<Q8> [p.3]へ)

例:「浅水代かき」は、農機に負担をかける可能性や作業速度が低下することが課題
「自然落水」は、栽培スケジュールに合わせる事が課題
「捕集ネット」は、コストや手間がかかることが課題

<Q7><Q4>で「**2.流出防止対策を実施していない**」と回答した生産者様にお聞きします。

現在、流出防止対策を実施していない理由について、以下の中から、**当てはまるものすべてに「○」**をお付け下さい。その他の場合は、内容をお教え下さい。(回答後<Q8>へ)

1. 効果がある流出防止対策が分からないため 2. 流出防止対策を実施すると、手間がかかるため 3. 流出防止対策を実施すると、経費が増加するため 4. 地域において、流出防止対策が必要であるという意識があまりないため 5. その他 ()

<Q8> **すべての生産者様**にお聞きします。

プラスチック被覆肥料の代替技術として以下のようなものがあります。現在、**実施している代替技術について、当てはまるものすべてに「○」**を付け、**実施している技術には、利用する上での課題・問題点**をお教え下さい。**実施していない技術には、実施していない理由**をお教え下さい。その他の場合は内容をお教え下さい。(回答後<Q9> [p.4]へ)

※代替技術の具体的な内容は、同封資料をご覧ください。

代替技術	実施しているものに○を付けて下さい	実施している上での課題・問題点	実施していない理由
1. プラスチック使用量を削減した「減プラ肥料(Ｊコート等)」の活用		()	()
2. プラスチックを使用しない緩効性肥料(硫黄コーティング肥料、ウレアホルム肥料等)の活用		()	()
3. 流し込み肥料の活用		()	()
4. ドローンによる追肥		()	()
5. ペースト2段施肥技術		()	()
6. その他 ()		()	()

<Q9> プラスチック被覆肥料の代替技術として、今後実施したい(今後も実施していきたい)代替技術で、当てはまるものすべてに「○」を付け、その理由をお教え下さい。その他の場合は、内容をお教え下さい。(回答後<Q10> [p.5]へ)

※代替技術の具体的な内容は、同封資料をご覧ください。

今後実施したい(今後も実施したい)代替技術	実施したいものに○を付けて下さい	その理由
1. プラスチック使用量を削減した「減プラ肥料(Jコート等)」の活用		()
2. プラスチックを使用しない緩効性肥料(硫黄コーティング肥料、ウレアホルム肥料等)の活用		()
3. 流し込み肥料の活用		()
4. ドローンによる追肥		()
5. パースト2段施肥技術		()
6. その他 ()		()

<Q10> プラスチック被覆肥料の各代替技術について、プラスチック被覆肥料と比較し、許容できる費用と労力の増加程度として、当てはまるもの一つに「○」をお付け下さい。

※費用は肥料費、機械費(減価償却費)の合計、労力は作業者一人当たりの労働時間としてご回答下さい。(回答後<Q11> [p.6]へ)

※代替技術の具体的な内容は、同封資料をご覧ください。

代替技術	プラスチック被覆肥料と比べ許容できる費用	プラスチック被覆肥料と比べ許容できる労力
1. プラスチック使用量を削減した「減プラ肥料(Jコート等)」の活用	1. プラスチック被覆肥料と同等な費用 2. 数%(2~5%程度)の費用増加 3. 5~10%程度の費用増加 4. 10~15%程度の費用増加	1. プラスチック被覆肥料と同等な労力 2. 数時間(2~5 時間)程度の労働時間の増加 3. 数日(1~3 日間)程度の労働時間の増加 4. 3~5 日間程度の労働時間の増加
2. プラスチックを使用しない緩効性肥料(硫黄コーティング肥料、ウレアホルム肥料等)の活用	1. プラスチック被覆肥料と同等な費用 2. 数%(2~5%程度)の費用増加 3. 5~10%程度の費用増加 4. 10~15%程度の費用増加	1. プラスチック被覆肥料と同等な労力 2. 数時間(2~5 時間)程度の労働時間の増加 3. 数日(1~3 日間)程度の労働時間の増加 4. 3~5 日間程度の労働時間の増加
3. 流し込み肥料の活用	1. プラスチック被覆肥料と同等な費用 2. 数%(2~5%程度)の費用増加 3. 5~10%程度の費用増加 4. 10~15%程度の費用増加	1. プラスチック被覆肥料と同等な労力 2. 数時間(2~5 時間)程度の労働時間の増加 3. 数日(1~3 日間)程度の労働時間の増加 4. 3~5 日間程度の労働時間の増加
4. ドローンによる追肥	1. プラスチック被覆肥料と同等な費用 2. 数%(2~5%程度)の費用増加 3. 5~10%程度の費用増加 4. 10~15%程度の費用増加	1. プラスチック被覆肥料と同等な労力 2. 数時間(2~5 時間)程度の労働時間の増加 3. 数日(1~3 日間)程度の労働時間の増加 4. 3~5 日間程度の労働時間の増加
5. ペースト2段施肥技術	1. プラスチック被覆肥料と同等な費用 2. 数%(2~5%程度)の費用増加 3. 5~10%程度の費用増加 4. 10~15%程度の費用増加	1. プラスチック被覆肥料と同等な労力 2. 数時間(2~5 時間)程度の労働時間の増加 3. 数日(1~3 日間)程度の労働時間の増加 4. 3~5 日間程度の労働時間の増加

プラスチック被覆肥料と比べ許容できる費用と労力を選択肢の中から、当てはまるもの一つに○をお付け下さい。

<Q11> プラスチック被覆肥料の代替技術(減プラ肥料/緩効性肥料/流し込み肥料/ドローンによる追肥/ペースト2段施肥技術)が、今後水稻生産者に普及拡大するために、必要であると思われるものについて当てはまるものすべてに「○」をお付け下さい。その他の場合は、内容をお教え下さい。(回答後<Q12>へ)

1. 代替技術を利用した効果的な使い方が分かる事例の紹介
 2. 代替技術を利用した栽培試験データ(収量や農作物品質の比較)の公表
 3. JA や農業試験場などの営農指導員からの代替技術を使った営農指導
 4. 代替技術の導入費用支援(助成制度)
 5. JA や自治体等の水稻の栽培暦等に代替技術を掲載
 6. その他
- ()

<Q12> プラスチック被覆肥料の被膜殻流出防止対策や代替技術について、ご意見等ございましたら、自由にご記入下さい。(回答後[p.7]へ)

